

作業療法学科

1年次科目

【必修科目】

運動学Ⅰ	15	生理学演習	22
解剖学Ⅰ	21	保健医療臨床心理学	25
解剖学演習	21	【選択科目】	
基礎作業学	16	関係法規（理学・作業）	25
コミュニケーション論	15	感染・免疫学	26
作業療法学概論	16	生活支援環境学	24
作業療法学概論演習	17	生化学	24
精神医学Ⅰ	23	薬理学概論	23
生理学Ⅰ	22		

2年次科目

【必修科目】

医療英語 a	81	整形外科学Ⅰ	77
医療英語 b	82	小児科学	76
基礎作業学実習	52	神経内科学Ⅰ	76
作業運動学実習	52	生理学実習	79
解剖学Ⅱ	74	精神医学Ⅱ	78
解剖学実習	74	病態学Ⅰ	79
外科学	75	リハビリテーション医学	80
作業療法総合演習Ⅰ	53	内科学	82
作業療法評価学	53	脳神経外科学	83
作業療法評価学演習	54	【選択科目】	
作業療法評価学実習	55	健康管理論	75
作業療法評価臨地実習Ⅰ	55	公衆衛生学	81
身体作業療法学Ⅰ	56	神経内科学Ⅱ	77
精神作業療法学	57	整形外科学Ⅱ	78
日常生活活動学	57	病態学Ⅱ	80

3年次科目

【必修科目】

身体作業療法学Ⅰ実習	103	作業療法学研究法	110
身体作業療法学Ⅱ	103	作業療法総合演習Ⅱ	111
身体作業療法学Ⅲ	104	認知作業療法学演習	112
生活支援機器学演習	105	老年作業療法学	113
精神作業療法学演習	106	老年作業療法学演習	113
治療的レク・グループワーク論	106	老年医学	133
日常生活活動学実習	107	言語聴覚治療学概論	132
作業療法評価臨地実習Ⅱ	107	【選択科目】	
総合臨地実習Ⅰ	108	教育心理学	130
発達作業療法学	108	社会心理学	130
発達作業療法学演習	109	障害児教育論	131
義肢装具学	109	精神保健学	131
義肢装具学実習	110	画像診断学	132

4年次科目

【必修科目】

作業療法マネジメント論	152	作業療法事例研究	157
地域作業療法学	152	住環境整備学実習	158
住環境整備学	153	地域作業療法学実習	158
作業療法理論と実践	153	卒業研究	159
就労支援技術論演習	154	救急医学	167
総合臨地実習Ⅱ	154	ケア・マネジメント論	167
【選択科目】		国際保健医療比較論	164
専門職間連携演習Ⅰ	155	災害保健科学概論	165
専門職間連携演習Ⅱ	155	生理学Ⅱ	168
メンタルヘルス作業療法	156	リハビリテーション工学	166
カウンセリング論	156	臨床心理学演習	166
作業療法支援機器研究	157	障害者とスポーツ論	168

科目名	M126 運動学 I	科目種別	作業・1年・必修	単位数	2
担当教員	石橋 裕、篠田粧子、北 一郎、稲山貴代	後期		金曜日	4 時限
①授業方針・テーマ	①運動のメカニズムについて、運動生理学、脳神経科学、栄養科学の観点から学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②運動や行動を制御する仕組みや適応機構について理解し、健全な日常生活をおくるための運動の役割や応用法について学習する。				
③授業計画・内容	③項目1:(1回)運動とは(オリエンテーション) 項目2:(2,3回):身体運動と力学 項目3:(4,5回):運動器の構造と機能 項目4:(6,7回)運動と循環・呼吸機能 項目5:(8,9回)運動とエネルギー・代謝・栄養(篠田教授・稲山准教授担当) 項目6:(10,11回)中枢神経機能と運動、適応変化(北教授担当) 項目7:(12,13回)運動学習 項目8:(14回)運動と恒常性維持 項目9:(15回)まとめ 【授業外時間】1回の教科書の学習(ミニテスト対応)と自己学習(レポート作成)に180分以上を想定している。				
④テキスト・参考書	④テキスト:教科書として、基礎運動学第6版補訂(医歯薬出版)を使用。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況、受講態度、課題、および筆記試験などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日・時間を変更することがあるので注意すること。				

科目名	M303 コミュニケーション論	科目種別	作業・1年・必修	単位数	1
担当教員	谷村 厚子、石井 良和	後期		月曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	①人間は社会で生きている限り周囲とのメッセージのやりとりを行い続けている。こうした人間相互の交流は、作業療法が対象者の仕事、遊び、日常生活活動の改善を支援する上でも大変重要である。本科目では、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションについて理解を深め、コミュニケーションと交流技能を向上するとともに、将来、作業療法士として必要な対人支援技能の獲得を目標とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②同上				
③授業計画・内容	③ 1回 オリエンテーション、コミュニケーションとは 2回 対人コミュニケーション:文章をツールとした場合① 3回 同② 4回 対人コミュニケーション:受信技能-処理技能-送信技能、非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション① 5回 同② 6回 コミュニケーションと交流技能:ACISを用いて① 7回 同② 8回 自分と友達のコミュニケーションと交流技能は?① 9回 同② 10回 同③ 11回 対人コミュニケーション、コミュニケーションと交流技能①(グループワーク) 12回 同②(グループワーク) 13回 同③(プレゼンテーション) 14回 同④(プレゼンテーション) 15回 まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書:山田孝・訳:コミュニケーションと交流技能評価(ACIS).日本作業行動学会,2007.その他、必要に応じて配布、紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験40%,プレゼンテーション30%,レポート20%,出席10%				
⑥特記事項					

科目名	M135 基礎作業学	科目種別	作業・1年・必修	単位数	1
担当教員	ボンジェ ペイター	後期・前半	火曜日		5 時限
①授業方針・テーマ	①作業療法の基礎であり、治療目標および治療手段となる「作業」および人の健康と幸福に支持する「作業」を記述と理解する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は以下の通りである。 ア) 「作業」を記述と理解できる。 イ) 作業が人の生活と人の人生の関係を理解する。 ウ) 作業の治療的応用について知る。 エ) Be able to express the above in English.				
③授業計画・内容	③1回目: Team-building & Introduction to occupation as in OT/チームビルディング & 作業療法における作業の概要 2回目: What are occupations? & categorizations of occupations/作業とは? & 作業の分類 Group work/グループワーク 3回目: Meaningful occupations/意味のある作業 Group work/グループワーク 4回目: Occupations as in OT (means and ends)/作業療法における作業(媒体と目標) Group work/グループワーク 5回目: Occupation contexts/作業の文脈 Group work/グループワーク 6回目: Group presentations/グループプレゼンテーション 7回目: Occupations that structure the day/1日を構成する作業 8回目: Occupational performance/作業遂行 Short test/小テスト				
④テキスト・参考書	④教科書: 吉川ひろみ「作業って何だろう」 医歯薬出版 葉山靖明 [だから、作業療法が大好きです!] 三輪書店 OR・または、Y Hayama Look at what you can do! Real stories of occupational therapy in Japan 三輪書店 (日本語か、Englishか、 参考書: 様々な「作業学」「作業療法概論」の図書				
⑤成績評価方法	⑤提出物: プレゼンテーション 30-40%(参考: 下記の特記事項) 個別なレポートあるいは小テスト 60-70%				
⑥特記事項	⑥葉山氏のテキストは、英語版か日本語版かどちらでも宜しいですが、クラスの3分の1~2分の3ぐらい英語のテキストをご利用いただいたら、ありがたいです。				

科目名	M131 作業療法学概論	科目種別	作業・1年・必修	単位数	1
担当教員	石井 良和	前期・後半	火曜日		3 時限
①授業方針・テーマ	①本講義の目標は、作業療法の概要と作業療法の視点を学び、作業療法学生としての同一性の基礎と心構えを培うことである。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②行動目標: 本講義を通じて、学生は以下の行動が取れるようになる。 1) リハビリテーションにおける作業療法を説明できる。 2) 国内外の作業療法の定義を言える。 3) 作業療法の対象領域と役割を言える。 4) 作業療法の目的と方法を言える。				
③授業計画・内容	③1回 リハビリテーションの目標と作業療法 2回 作業療法の定義・歴史 3回 現代の作業療法: クライアント中心の実践 4回 同上 : 作業中心の実践 5回 同上 : 証拠に基づく実践 6回 作業療法の領域と役割 7回 作業療法の目的と方法 8回 まとめと試験				
④テキスト・参考書	④教科書 編集 岩崎テル子: 標準作業療法学 作業療法学概論(第2版). 医学書院, 2011 参考書 山田孝・訳: 作業療法実践の理論、原書第4版. 医学書院, 2014				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 70%, レポート 20%, 出席 10%				
⑥特記事項					

科目名	M298 作業療法学概論演習	科目種別	作業・1年・必修	単位数	1
担当教員	石井 良和	後期	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①本講義の目標は、作業療法概論に引き続き、作業療法学に関する理論を学び、作業療法学生としての同一性の基礎と心構えを培うことである。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法の歴史および理論を十分に学び、上級学生になっての学びの基礎を形成する。下の第6回から第12回は学生がグループで教科書を読み、プレゼンテーションをすることになる。				
③授業計画・内容	③1回 実践上の発見から概念上の理解へ 2回 実践を支援するために必要な知識：パラダイム、概念的実践モデル、関連知識の概説 3回 作業療法実践の初期の展開 4回 現代のパラダイムの創発 5回 概念的実践モデルの特性と役割 6回 意図的關係モデルとは 7回 運動コントロールモデル 8回 感覚統合モデル 9回 機能的グループモデル 10回 生体力学モデル 11回 人間作業モデル 12回 認知モデル 13回 関連知識① 14回 関連知識② 15回 まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書 山田孝・訳：作業療法実践の理論、原書第4版。医学書院、2014				
⑤成績評価方法	⑤レポート 80%、出席・授業参加態度(プレゼンテーション含む)20%				
⑥特記事項					

科目名	M320 基礎作業学実習	科目種別	作業・2年・必修	単位数	2
担当教員	石橋 裕	前期	木曜日 金曜日	1, 2 時限 3, 4 時限	
①授業方針・テーマ	①様々な作業活動の実習を通して、作業療法の治療手段の基礎的な知識と技術を習得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 様々な対象者に作業活動を適用するための基礎知識と技術を習得する。 2. 作業活動を遂行するために必要な、身体的、心理的、認知的機能を学習する。				
③授業計画・内容	③実習は2グループに分かれて実施する。 <前期木曜日> 1)オリエンテーション 実習準備 2)～6)、7)～11)(各3回2グループ) A. 木工: 1. 木製品の設計と準備作業 2. 部材の作製 3. 部材の仕上げ B. 陶芸: 1. 陶芸の準備作業 2. 成形、加工 3. 施薬、焼成 12)～13)、14)～15) 作業分析及び実習 <前期金曜日> 16)～19)、20)～23)(各4回2グループ) C. 織物: 1. 織の概略、工程 2. 平織・綾織3. 自由作品 D. 美術: 1. 油絵(自画像)自分を見つめる 2. 紙版画、エッチング 素材の面白さ 24)作業活動分析発表、まとめ、片付け				
④テキスト・参考書	④<教科書>「基礎作業学:作業療法全書 第2巻(改訂第3版)」日本作業療法士協会編 協同医書 2009 <参考書>「作業・その治療的応用(改訂第2版)」日本作業療法士協会編 協同医書 2003				
⑤成績評価方法	⑤課題作品(60%)、課題レポート(20%)、および出席(20%)による。				
⑥特記事項	⑥各自作業用エプロン、古タオル等準備、作業向きの服装で出席すること。 特別な準備が必要な場合はその都度連絡する。				

科目名	M312 作業運動学実習	科目種別	作業・2年・必修・ クラス指定	単位数	1
担当教員	井上 薫 他	後期	木曜日	3,4,5 時限	
①授業方針・テーマ	①「運動学Ⅰ」「作業運動学」で学んだ基礎的な知識に基づき、作業療法に必要な身体機能の運動学について、実習形式で学びより実践的な知識を身につける。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②既習した「運動学Ⅰ」「作業運動学」の知識を活用し、肉眼観察および装置による計測などの手段を用いて、人間の正常運動を観察、計測、記録、解析、考察し、それらを他者へ口頭および書面にてプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。 実習の進め方: 初回オリエンテーションの後、課題1から8までは教科書あるいは教員が配布するプリントの課題に沿って実習を行う。実習は3部構成になっており、第Ⅰ部では、運動学Ⅰ、作業運動学の復習をしつつ、基本的な肉眼観察、触診の習得を目的とする。第Ⅱ部では、肉眼観察を生かし、動作分析などより臨床的課題に取り組む。第Ⅲ部では、学生主体となってテーマを決め、自ら計画したテーマに沿って実習に取り組み、全体へプレゼンテーションを実施し質疑応答を行う。レポート: 課題1から8までは、実習終了後、期日までに各自レポートを作成、提出する。第Ⅲ部の選択自由課題では、指導教員と相談し各グループでテーマを決定、3回に渡り実験計画立案、実験の実施、分析、検討を行う。この課題では、グループで1通レポートを作成し、最終回にプレゼンテーションを行なう。レポート、プレゼンテーションは、第三者に自分が経験し、学び、考えたことを的確に伝えるものである。本実習を通じ、科学レポートの作成、プレゼンテーションについても学びを深めてほしい。				
③授業計画・内容	③下記の項目に沿ってすすめる。(文中数値は課題番号を示す) 初回. 導入・レポートの書き方、1. 静止姿勢・生体力学(身体運動の理解)、2. 筋骨格と関節運動Ⅰ(頭頸部・体幹)、3. 筋骨格と関節運動Ⅱ(上肢)、4. 筋骨格と関節運動Ⅲ(下肢)、5. 動作テンポ・スキルの分析、6. 立ち直りと平衡、7. 手・上肢の動作、8. 姿勢・動作の変換、9～12. 選択式自由課題(筋活動、動作解析、眼球運動と認知、運動学習、眼球運動と認知等の課題から1つ選択)、最終回. グループによる課題発表と討論、教員からのフィードバック				
④テキスト・参考書	④教科書: 運動学実習 鎌倉矩子 田中繁著 三輪書店、および配布プリントを使用する。 参考書: 運動学実習 中村隆一 斉藤宏他 医師薬出版 基礎運動学 中村隆一 斉藤宏著 医歯薬出版 触診解剖アトラス 頸部・体幹・上肢 Serge Tixa 著 奈良勲監訳 医学書院 触診解剖アトラス 下肢 Serge Tixa 著 奈良勲監訳 医学書院 他、講義時に紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤実習レポート・プレゼンテーション(90%)、出席・態度(10%)によって評価する。 全日出席が原則である。 忌引き、病気等やむを得ない理由による欠席、遅刻、早退の場合は考慮するので教員まで必ず連絡すること。				
⑥特記事項	⑥特になし				

科目名	M318 作業療法総合演習Ⅰ	科目種別	作業・2年・必修	単位数	1
担当教員	伊藤祐子、大嶋伸雄、石井良和、小林隆司、ボンジェ ペイター、井上薫、小林法一、谷村厚子、宮本礼子、石橋裕		後期	水曜日	3,4時限
①授業方針・テーマ	①本科目は、これまでに本学で学んだ作業療法に関する全知識の統合を図り、作業療法への理解および実践力を向上させるものである。具体的には精神障害領域、身体障害領域における事例検討やロールプレイを学生主体のグループワーク(PBL:Problem Based Learning)形式で実施し、レポート等の課題を提出する。また、総合的な能力判定として、口頭試問と実技試験を組み合わせた(Reasoning & Skills Test ; RST)を実施する。また本科目は、3年生と適宜合同で実施する(作業療法総合演習Ⅱ)				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法評価臨床実習に必要とされるレベルの、問題解決能力、コミュニケーション能力、作業療法学生としてふさわしい態度、報告・連絡・相談の習慣を身につける。領域に関わらず、対処が困難な場面に対峙した際の自分の対応について考え、自分なりの解決策を構築することが出来るようになる。また、実習指導者の下で対象者の評価を実施し、評価結果を統合解釈し、問題点の抽出、作業療法目標の設定を行えるレベルまで到達する。				
③授業計画・内容	③第1回オリエンテーション 第2回セッション 1 問題解決能力養成課題等 第3回セッション 2-1 身体障害系事例検討 第4回セッション 2-2 " 第5回セッション 2-3 " 第6回セッション 2-4 " 第7回セッション 2-5 " 第8回セッション 3-1 精神障害系事例検討 第9回セッション 3-2 " 第10回セッション 3-3 " 第11回 セッション 3-4 " 第12-15回 RST 12月中を予定				
④テキスト・参考書	④指定しない。すべての作業療法関連科目の書籍、資料、学生自身のノート、その他を適宜活用すること。				
⑤成績評価方法	⑤レポート、課題、RST、出席、態度により総合的に評価する。全日出席を原則とする。				
⑥特記事項	⑥授業の進め方、課題、RSTの詳細等は初回オリエンテーション時に伝える。グループワークの実施に際しては、教員はファシリテータとして参加し、進め方のアドバイスやコメントは適宜行うが、あくまでも学生主体の科目である。臨床実習では、指導者の下、学生それぞれが一人で臨むこととなる、本科目はその前段階として学友と共に学び、討論を重ねていくことで、受講者全員が成長することを目指している。本科目を有効に活用し、臨床実習、社会人となる準備の一助として欲しい。				

科目名	M313 作業療法評価学	科目種別	作業・2年・必修	単位数	2
担当教員	小林 隆司、宮本 礼子、石橋 裕		前期	火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	①作業療法評価学で得た知識を基にして、面接、観察、各種検査法など、作業療法の身体領域の評価法を中心に演習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・作業療法の身体領域評価の基礎を理解し、評価の目的を明確に説明することが出来る ・身体領域評価を、模擬患者に対して適切に実施することができる ・個別の評価結果から患者の状態を適切に把握し、サマリーにまとめることが出来る				
③授業計画・内容	③1. 作業療法における評価の意義と基本的触診・視診の方法 2. バイタル測定(血圧・呼吸・脈拍)と形態計測 3. 徒手筋力検査法の基礎と握力・ピンチ力の評価 4. 徒手筋力検査法2(上肢・下肢・体幹・頸部) 5. 徒手筋力検査法3(上肢・下肢・体幹・頸部) 6. 徒手筋力検査法4(上肢・下肢・体幹・頸部) 7. 関節可動域検査1(上肢・下肢・体幹) 8. 関節可動域検査2(上肢・下肢・体幹) ⇒模擬患者への実技 9. 中間筆記試験と解説 10. 実技試験と解説(バイタル測定、関節可動域検査、徒手筋力検査)⇒模擬患者への実技 11. 高次脳機能評価の基礎(注意と記憶の障害を中心に) 12. 高次脳機能評価の実践(机上検査を中心に) 13. 感覚・知覚検査1(中枢神経疾患に対する評価) 14. 感覚・知覚検査2(末梢神経疾患に対する評価) 15. 反射・筋緊張・姿勢評価・バランス評価(寝返り等の動作分析の体験) 16. 筆記試験				
④テキスト・参考書	④教科書：①岩崎テル子編集：標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 医学書院 ②津山直一訳：徒手筋力検査法(原著第9版)協同医書 参考書：①潮見泰蔵、下田信明編集：PT・OT ビジュアルテキストリハビリテーション基礎評価学(第1版)羊土社、東京、2014。 ②尾上尚志ほか監修：病気がみえる vol.7 脳・神経。MEDIC MEDIA、東京、2012。 その他、講義時に紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況および2回の筆記試験によって評価する。				
⑥特記事項	⑥実技試験の際には、名札・ケーシー・白い靴を着用すること。				

科目名	M314 作業療法評価学演習	科目種別	作業・2年・必修	単位数	1
担当教員	宮本 礼子、小林 隆司、石橋 裕	前期		火曜日	5 時限
①授業方針・テーマ	①作業療法評価学で得た知識を基にして、面接、観察、各種検査法など、作業療法の身体領域の評価法を中心に演習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・作業療法の身体領域評価の基礎を理解し、評価の目的を明確に説明することができる ・身体領域評価を、模擬患者に対して適切に実施することができる ・個別の評価結果から患者の状態を適切に把握し、サマリーにまとめることができる				
③授業計画・内容	③1. 作業療法における評価の意義と基本的触診・視診の方法 2. バイタル測定(血圧・呼吸・脈拍)と形態計測 3. 徒手筋力検査法の基礎と握力・ピンチ力の評価 4. 徒手筋力検査法2(上肢・下肢・体幹・頸部) 5. 徒手筋力検査法3(上肢・下肢・体幹・頸部) 6. 徒手筋力検査法4(上肢・下肢・体幹・頸部) 7. 関節可動域検査1(上肢・下肢・体幹) 8. 関節可動域検査2(上肢・下肢・体幹) ⇒模擬患者への実技 9. 中間筆記試験と解説 10. 実技試験と解説(バイタル測定、関節可動域検査、徒手筋力検査)⇒模擬患者への実技 11. 高次脳機能評価の基礎(注意と記憶の障害を中心に) 12. 高次脳機能評価の実践(机上検査を中心に) 13. 感覚・知覚検査1(中枢神経疾患に対する評価) 14. 感覚・知覚検査2(末梢神経疾患に対する評価) 15. 反射・筋緊張・姿勢評価・バランス評価(寝返り等の動作分析の体験) 16. 筆記試験				
④テキスト・参考書	④教科書: ①岩崎テル子編集:標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 医学書院 ②津山直一訳:徒手筋力検査法(原著第9版)協同医書 参考書: ①潮見泰蔵,下田信明編集:PT・OT ビジュアルテキストリハビリテーション基礎評価学(第1版), 羊土社, 東京, 2014. ②尾上尚志ほか監修:病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA, 東京, 2012. その他、講義時に紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況、授業態度、課題の成績、実技試験の成績によって評価する。				
⑥特記事項	⑥実技試験の際には、名札・ケーシー・白い靴を着用すること。				

科目名	M315 作業療法評価学実習	科目種別	作業・2年・必修	単位数	1
担当教員	宮本 礼子、小林 隆司、石橋 裕			後期	火曜日
①授業方針・テーマ	①作業療法評価学演習で習得した知識と技術の深化とともに、対象疾患ごとに情報の統合と解釈、問題点・利点の抽出までの評価過程を実習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法評価の一連の過程を理解し、実際の患者あるいは模擬患者を対象に、評価の実施と結果の解釈ができることを目標とする。				
③授業計画・内容	③1. 作業療法の評価「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」の実践 2. 疾患別評価① 脳血管障害の評価1 (Brunnstrom test と上田 12 グレードの実施) 3. 疾患別評価① 脳血管障害の評価2 (脳卒中総合評価 SIAS の実施) 4. 疾患別評価① 脳血管障害の評価3 (上肢機能検査 STEF, MFT, ARAT の実施) 5. 疾患別評価① 脳血管障害の評価4 (クライアント評価計画の立案) 6・7. 疾患別評価① 脳血管障害の評価5 (クライアントの評価体験) 8. 疾患別評価② 脊髄損傷の評価 (ASIA, MMT, ROM, 感覚検査、姿勢、耐久性評価の実施) 9. 疾患別評価③ 末梢神経障害の評価 (感覚検査、チネルサイン、MMT の実施) 10. 疾患別評価④ 関節リウマチの評価 (ROM, 握力検査、変形・疼痛評価の実施) 11. 疾患別評価⑤ 神経難病の評価1 (協調性障害の評価、バランス評価の実施) 12. 疾患別評価⑤ 神経難病の評価2 (脳神経検査、嚥下評価の実施) 13. 疾患別評価⑥ 頭部外傷の評価 (高次脳機能障害の観察評価・自記式評価を中心に実施) 14. ADL 評価 (FIM, BI による評価の実施と観察内容の解釈) 15. 実技試験 (片麻痺機能検査, 関節可動域検査, 協調性評価, ADL 評価) 16. 試験および解説				
④テキスト・参考書	④教科書: ①岩崎テル子編集: 標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 医学書院 ②ポケット版 OT 臨床ハンドブック増補版 三輪書店 参考書: ①潮見泰蔵, 下田信明編集: PT・OT ビジュアルテキストリハビリテーション基礎評価学 (第 1 版), 羊土社, 東京, 2014. ②尾上尚志ほか監修: 病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA, 東京, 2012. 他、講義時に紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤実技試験、筆記試験、提出課題の成績、出席状況によって評価する。				
⑥特記事項	⑥実技試験の際には、名札・ケーシー・白い靴を着用すること。				

科目名	M319 作業療法評価臨床実習 I	科目種別	作業・2年・必修	単位数	3
担当教員	作業療法学科全教員			通年	
①授業方針・テーマ	①病院等の臨床教育施設において、作業療法評価を体験する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は以下の通りである。 1) 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる 2) 施設の役割と機能について理解することができる 3) 対象者の作業療法評価計画を立案できる 4) 作業療法士の行う治療・援助・指導について理解することができる ※より具体的な目標は、オリエンテーションの際に配布する『臨床実習ガイドライン』に記載がある。				
③授業計画・内容	③施設での実習開始前にオリエンテーションを実施する。 各施設で3週間の実習を行う。 学内セミナーを実施する。				
④テキスト・参考書	④教科書: 特に指定しない。 参考書: 市川和子編集, 標準作業療法学 臨床実習とケーススタディ, 医学書院				
⑤成績評価方法	⑤臨床実習結果報告書および実習課題とセミナー発表により評価する。				
⑥特記事項	⑥本実習を履修するためには、実習以前に履修すべき科目の全ての単位を修得しなければならない。				

科目名	M316 身体作業療法学 I	科目種別	作業・2年・必修	単位数	2
担当教員	小林 隆司、井上 薫	前期	水曜日	2 時限	
①授業方針・テーマ	①本科目では、身体機能に焦点をあてた作業療法(疾患、障害に関する復習、作業療法の基本的考え方、評価、支援)を学習する。本講義は、解剖学、生理学、作業運動学等の基礎専門科目、整形外科、神経内科学等の臨床医学の知識を必要とするため、講義の前に関連する分野の学習を行った上で臨むことが必須である。更にその上で、教科書の授業範囲を読み、興味を持った事項を調べて WEB にて提出すること。授業では、予習範囲の知識の確かめと、事例に関するディスカッション、そして次回の予習をしたいと考えている。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②臨床実習を受講可能なレベルの身体機能の作業療法学に関する基本的知識の習得を目標とする。具体的には、知識を理解、記憶し、自分自身の言葉で内容を第三者へ説明できることを目指す。また、本講義を通じ、問題解決の手法、勉強の方法を身につけることも目標とする。また、ディスカッションを通じて、身体障害領域での臨床思考過程を習得する。				
③授業計画・内容	<p>③第1回:総論 第3回:治療原理(筋力増強) 第5回:治療原理(運動学習) 第7回:神経変性疾患 第9回:神経・筋疾患 第11回:関節リウマチ 第13回:切断 第15回:試験・解説</p> <p>第2回:治療原理(関節可動域拡大) 第4回:脊髄損傷 第6回:脳血管障害 第8回:末梢神経障害 第10回:熱傷 第12回:骨・関節疾患 第14回:リスク管理</p> <p>【授業方法】 (授業前)教科書を基盤に、発展的な内容について自己学習をおこない、kibaco にレポートとして提出する。教員は、提出されたレポートの中から数名のものをピックアップして授業の資料作成。 (授業)教科書の内容に関するミニテスト。資料としてピックアップされた学生は、調べた内容を発表する。質疑応答。事例検討についてのグループワーク(個人作業→集団ディスカッション→個人作業)。次回の内容についての予習とミニテスト範囲の確認。 【授業外時間】1 回の教科書の学習(ミニテスト対応)と自己学習(レポート作成)に 180 分以上を想定している。</p>				
④テキスト・参考書	④教科書:岩崎テル子編集、標準作業療法学 身体機能作業療法、医学書院				
⑤成績評価方法	⑤期末試験(50%)、レポート(25%)、ミニテスト(25%)により評価 期末試験は、知識を問う問題と思考力を問う問題から構成される。ミニテストは知識を問う。レポートは内容のほか主体性をもって学ぶ態度を問う。				
⑥特記事項	⑥【他の授業科目との関連性】同時期に開講される「作業療法評価学」や「作業療法評価学演習」とリンクさせて学習すること。3 年次の「身体作業療法学 I 実習」や「身体作業療法学Ⅲ」の基盤となる科目である。				

科目名	M321 精神作業療法学	科目種別	作業・2年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	石井 良和、谷村 厚子	後期		水曜日	1時限
①授業方針・テーマ	①精神障害者の理解, 精神科領域の医療保健福祉, 同領域で用いられる作業療法理論の概説, 障害の特徴およびそのとらえ方, 作業療法の評価とアプローチを学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②精神障害の特徴およびそのとらえ方を説明できる。 精神科領域の作業療法理論を概説できる。 精神科領域の作業療法の流れを説明できる。 主な精神障害の特徴に配慮した作業療法評価およびアプローチを説明できる。				
③授業計画・内容	③第1回:オリエンテーション, 精神科作業療法の評価とは何か。 第2回~第3回:面接について(講義と演習) 第4回:尺度, 質問紙, 検査, 構成的面接(講義と演習) 第5回:模擬患者を招聘した面接実習 第6回~第7回:観察・記録(講義と演習) 第8回~第9回:作業療法における精神障害者の理解 第10回:精神科領域の作業療法プログラム立案① 第11回:精神科領域の作業療法プログラム立案② 第12回:精神科領域の作業療法プログラム立案③ 第13回:精神科領域におけるADL, IADL 第14回:事例を通じた精神科作業療法の評価とアプローチの理解 第15回:まとめ 第16回:試験				
④テキスト・参考書	④テキスト:石井良和, 京極真, 長雄眞一郎・編集:「精神領域の作業療法 第2版」. 中央法規 テキスト:岩崎テル子・他編集:標準作業療法学専門分野「作業療法評価学」. 医学書院 テキスト:日本作業療法士協会編:作業療法学全書第11巻「日常生活活動」. 協同医書出版社 参考書:屋田源四郎:統合失調症患者の行動特性. 金剛出版 参考書:日本作業療法士協会編:作業療法学全書第5巻「精神障害」. 協同医書出版社				
⑤成績評価方法	⑤授業態度・出席(20%), 期末試験(70%), レポート(10%)				
⑥特記事項	⑥オフィスアワー:連絡すれば随時可 人間の主観と客観について考える心理学系および哲学系の科目を履修しておくことが望ましい。				

科目名	M317 日常生活活動学	科目種別	作業・2年・必修	単位数	1
担当教員	ボンジェ ペイター	後期・前半		火曜日	1時限
①授業方針・テーマ	①作業療法の対象は、日常生活を構成する作業の遂行が困難となった人や集団である。本講義では、主に職業に関わるもの以外の作業についての問題を評価し、解決するための基本的な手法について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は以下の通りである。 ・人の1日がどのような作業で構成されているのか説明できる。 ・ADL(日常生活活動)の概念について説明できる。 ・ADLの評価に使われる各種評価法の概要を述べることができる。 ・作業療法におけるADLの評価、介入の特徴について説明できる。				
③授業計画・内容	③1回目:導入、作業遂行の観察(技能の評価) 2回目:日常生活活動の評価:COPM、ACTRE(日記:1日を構成する作業)など 3回目:小テスト、日常生活活動の評価:COPM練習 4回目:生活活動遂行の分析と観察、グループワーク課題導入 5回目:小テスト、作業遂行の観察(もう一度)、グループワーク 6回目:グループワーク 7回目:日常生活活動の捉え方 8回目:グループ発表・小テスト				
④テキスト・参考書	④教科書:「作業療法学全書改訂第3版作業療法技術学 3 日常生活活動」 協同医書 吉川ひろみ「COPM・AMPS スターティングガイド」 医学書院 参考書:吉川ひろみ「作業って何だろう」 医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤グループ発表(40%)、小テスト、(60%)を合わせて評価する。				
⑥特記事項	⑥30分間以上遅刻=欠席、3回欠席があれば、受験の資格を失うので、ご注意ください! 出席=活発的参加				

科目名	M336 身体作業療法学Ⅰ実習	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	大嶋 伸雄、ボンジェ ペイター、小林 隆司	前期		水曜日	1, 2 時限
①授業方針・テーマ	①身体領域作業療法において必須の概念であるトップダウン・アプローチとその介入に不可欠な「作業療法カウンセリング」の技術、ならびにボトムアップ・アプローチとその実践的治療技術・応用理論まで幅広く実践的に学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 身体領域の作業療法における援助概念と援助方法を体系的に説明できる。 2. 身体領域の作業療法における具体的介入・援助手段を実践的に使うための基礎能力を身につける。 3. リハビリテーション全体のチーム・アプローチ概念を基盤として、他領域の治療技術と手段・方法を理解し、併せて臨床作業療法における専門性と役割を包括的に理解することができる。				
③授業計画・内容	③第1項目：総論：身体障害における作業療法の治療技術概論 第2項目：中枢性麻痺の治療概念 Preview：ブルストローム・アプローチ、ホバース概念治療、PNF 他 第3項目：ボバース概念によるアプローチ 第4項目：ブルストローム・アプローチ、他 第5項目：様々な徒手療法の理論的基礎と Preview(関節可動域訓練) 第6・7項目：徒手訓練手技(1)(2) 第8項目：AMPS・OBP・OTIPM 第9項目：起居動作：立位・歩行 第10項目：活動分析シミュレーション-基礎と応用- 第11項目：作業課題解決学・作業療法患者教育論 第12・13・14項目：認知作業療法・作業療法カウンセリング論(1)(2)(3) 第15項目：症例検討～グループ発表				
④テキスト・参考書	④<教科書> 「身体障害領域の作業療法」大嶋伸雄・他 中央法規出版 「PT・OT・STのための認知行動療法ガイドブック」大嶋伸雄・中央法規出版 <参考書> 「環境適応」柏木正好 青梅社、「活動分析アプローチ」山本伸一・他 青梅社 「ステップス・トゥ・フォロー」Pa tricia M.Davies 著シュプリンガー・フェアラーク東京 「理学療法ハンドブック 第2巻治療アプローチ」細田多穂・他 協同医学書出版社 「PT・OTのための認知行動療法入門」菊池安希子・大嶋伸雄・他 医学書院				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 70%、課題レポート 10%、出席状況 20%に基づき総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥本演習を効果的に実施するためには学生諸君の予習が欠かせない。				

科目名	M330 身体作業療法学Ⅱ	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	宮本 礼子	前期		火曜日	3 時限
①授業方針・テーマ	①脳の機能とその障害像を理解し、臨床の作業療法に必要な知識と評価方法を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 神経心理学における背景症状ならびに一般症状を理解することができる。 2. 高次脳機能障害を把握するために必要な評価手段を理解し、選択することができる。 3. 演習モジュールにより高次脳機能障害の評価全般を実施することができる。				
③授業計画・内容	③1. オリエンテーション、評価実習経験を通じた高次脳機能障害患者のイメージ整理 2. 背景症状：意識・見当識障害および気分・意欲の障害(アパシーなど) 3. 注意障害と無視症候群 4. 視知聴覚の高次脳機能障害(視覚失認・パリント症候群・地誌的障害) 5. 構音障害と失語症 6. 身体感覚の高次脳機能障害(身体失認) 7. 演習モジュール1：意欲障害・注意障害・半側空間無視・失語・失認の評価 8. 行為に関する高次脳機能障害1(失行、運動維持困難) 9. 行為に関する高次脳機能障害2(把握現象、行為・行動の抑制障害) 10. 記憶障害と認知症 11. 遂行機能障害とギャンブリングタスク 12. 演習モジュール2：失行・記憶・遂行機能・知的機能の評価 13. 脳画像の診方と神経所見 14. 疾患から整理する高次脳機能障害：脳血管障害患者に出現する症状①右損傷 15. 疾患から整理する高次脳機能障害：脳血管障害患者に出現する症状②左損傷 16. 筆記試験				
④テキスト・参考書	④教科書： 1. 石合純夫：高次脳機能障害学第2版。医歯薬出版、2012。 参考書： 1. 原寛美 監修：高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版。医歯薬出版、2015。 2. 森惟明、鶴見隆正：PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見第2版。医学書院、2010。 3. 鎌倉矩子、本多留美：高次脳機能障害の作業療法。三輪書店、2013。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験成績、提出課題の成績、出席状況を総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥上記以外にも参考書は随時紹介する。 開講は5月からとなるため、5月中は原則週2回(火曜3・4限または金曜3限)開講となる。				

科目名	M331 身体作業療法学Ⅲ	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	小林 隆司	後期	木曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	①内部障害の作業療法では、人間の生命の基盤である呼吸、循環、消化、代謝等の機能を作業活動の視点から捉えてそれらの機能と生活を改善し、さらに、健康維持・増進を目的とした行動変容を図るための体系的アプローチを学ぶ。 教科書を読むことなどは自習時間でおこなうべきで、クラスではクラスでしかできないことをおこないたいと思っています。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 内部障害の基礎知識と基本的なリハビリテーション技術について学習する。 2. 最新の作業療法研究から内部障害の作業療法の意義と実践、発展性を理解し説明できる。				
③授業計画・内容	③第1回:総論、内部障害の定義、内部障害のリハビリテーションと作業療法 第2回:呼吸器障害の作業療法 第3回:循環器障害の作業療法 第4回:がんの作業療法 第5回:ターミナル期の作業療法 第6回:糖尿病の作業療法 第7回:サルコペニアの作業療法 第8回:試験・解説 【授業方法】 (授業前)教科書を基盤に、発展的な内容について自己学習をおこない、kibaco にレポートとして提出する。教員は、提出されたレポートの中から数名のものをピックアップして授業の資料作成。 (授業)教科書の内容に関するミニテスト。資料としてピックアップされた学生は、調べた内容を発表する。質疑応答。事例検討についてのグループワーク(個人作業→集団ディスカッション→個人作業)。次回の内容についての予習とミニテスト範囲の確認。 【授業外時間】1回の教科書の学習(ミニテスト対応)と自己学習(レポート作成)に180分以上を想定している。				
④テキスト・参考書	④<教科書> 岩崎テル子編「標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学」医学書院				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 50%, レポート 25%, ミニテスト 25% 期末試験は、知識を問う問題と思考力を問う問題から構成される。ミニテストは知識を問う。レポートは内容のほか主体性をもって学ぶ態度を問う。				
⑥特記事項	⑥【他の授業科目との関連性】「身体作業療法学Ⅰ」が前提となる科目である。				

科目名	M114 生活支援機器学演習	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	井上 薫		前期・前半		木曜日
					4,5 時限
①授業方針・テーマ	①障がいをもつ作業療法対象者の生活を支援するためには、適切な道具や福祉用具の活用と住環境整備が必要不可欠である。本講義では障がいのある人が、自らの意思でやりたいことが出来る生活を達成するために必要な福祉用具の適応の実際について演習形式で学ぶ。(ここでいう福祉用具とは広義の意味であり、様々な生活を支援する自助具、もの・道具・機器・装置等を含む。)				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②対象者のフェルトニーズ、ノーマティブニーズを理解した上で対象者と協業しながら、適切な福祉用具を選択、適用し対象者の生活を支援するために必要な基礎知識、評価・適用・操作技術を修得し、関連職種・支援対象者等に説明し、デモンストレーションできるようになることを目指す。実際は、関連職種との連携により支援する機会が多いため、作業療法士としての技能を発揮し、対象者(「人」中心)の視点から対象者や関連職種と協業していく際に十分に貢献できるよう、普段から備えておく必要がある。 必要とされる基礎知識、評価・適用・操作技術				
③授業計画・内容	③以下の内容を含む。 1. 導入(道具と人の関係、福祉用具を活用した支援の考え方・流れ) 2. 福祉用具の歴史と制度的背景・関連法規、関連職種、福祉用具に関する評価、リスク管理、住宅改修と福祉用具の関係 3. ADL、IADL に関する福祉用具(ベッドおよび周辺機器、移乗(リフター等)、コミュニケーション機器・環境制御装置(ECS)等含む) 4. ※特別講義および演習(福祉用具ユーザーの特別講演およびその人のニーズを満たすための福祉用具作成、臨床の作業療法士による福祉用具の適用の実際、介助犬講義およびデモンストレーション等) 5. 作業療法学生のためのリハビリテーション工学の基礎およびスイッチ製作演習 6. 福祉用具に関するトピックス(諸外国の生活環境や福祉用具、最先端の福祉用具、国際学会報告等) 7. まとめ・これからの福祉用具領域における作業療法士の役割 ・e-ラーニングを含める。 ・講義の進め方、小テスト内容、課題については、開講時に説明する。 ・本講義では、義肢装具、車椅子、シーティング以外の福祉用具を主に扱う。 ※特別講義は年度により内容が異なる場合がある。				
④テキスト・参考書	④○教科書 クリニカル作業療法シリーズ 福祉用具・住環境整備の作業療法, 玉垣努, 他編集, 中央法規。 ○参考書 作業療法学全書第10巻、福祉用具の使い方, 住環境整備 木之瀬隆編集協同医書 福祉用具で変わる介護のある暮らし—人がすること、道具だからできること, 浜田きよ子, 寺田和代, 中央法規出版 生活環境整備のための“福祉用具”の使い方, 窪田 静, 栄 健一郎, 日本看護協会出版会 福祉用具ハンドブック これぞ安心!! 買う前に読む福祉用具の選び方, 社会福祉法人名古屋 市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ, 大井企画 住環境のバリアフリーデザインブック—福祉用具・機器の選択から住まいの新築・改修の手法まで, 野村欽, 橋本美芽, 彰国社 ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル, 中央法規 ○参考サイト テクノエイド協会(ATA): http://www.techno-aids.or.jp/ 製品評価技術基盤機構(NITE): http://www.nite.go.jp/ 日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA): http://www.jaspa.gr.jp/ 保健福祉広報協会(国際福祉機器展 HCR): http://www.hcrjapan.org/ 東京大学・学際バリアフリー研究プロジェクト(AT2ED プロジェクト): http://at2ed.jp/ 福祉用具相談支援システム(日本作業療法協会): http://www.jaot.info/index.php 他、講義内で紹介する。(古い情報のものには気をつけること)				
⑤成績評価方法	⑤小テスト(20%), グループレポート(30%), 個人レポート(50%)を原則とし、出席・参加態度等を加味し総合的に評価する。 グループ演習形式であるため原則全日出席とするが、欠席、遅刻、早退の場合は必ず教員まで連絡を入れること。				
⑥特記事項					

科目名	M324 精神作業療法学演習	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	石井 良和、谷村 厚子	前期	水曜日	3, 4 時限	
①授業方針・テーマ	①2年次の精神作業療法学で学んだ評価とアプローチの各種理論的背景を学ぶ。さらに、各種精神疾患への作業療法を実施できるように、評価、実践、実践上の留意点、作業療法士の役割を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②精神障害領域での作業療法の治療が実践できるための理論や作業療法技法を修得する。				
③授業計画・内容	③以下の各種理論および具体的なアプローチを紹介する。 1. 治療理論①:生活療法, 生活臨床 2. 治療理論②:精神分析的アプローチと治療構造論 3. 治療理論③:認知行動療法的アプローチとナラティブアプローチ 4. 治療理論④:感覚統合的アプローチ 5. 急性期患者に対する作業療法 6. 慢性期患者に対する作業療法 7. 統合失調症に対する作業療法1 8. 統合失調症に対する作業療法2 9. 気分障害に対する作業療法 10. 神経症性障害に対する作業療法 11. パーソナリティ障害に対する作業療法 12. 症状性および器質性精神障害に対する作業療法 13. てんかんに対する作業療法 14. 精神科デイケア 15. 社会資源, リスク管理 16. 試験				
④テキスト・参考書	④教科書:石井良和ほか・編集:「精神障害領域の作業療法」中央法規 参考書:標準作業療法学 精神機能作業療法学 医学書院 参考書:作業治療学 2 精神障害 協同医書出版				
⑤成績評価方法	⑤期末テスト 80%, レポート提出 10%, 出席 10%				
⑥特記事項					

科目名	M335 治療的レク・グループワーク論	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	谷村 厚子、山崎 郁子 *	後期	火曜日	3, 4 時限	
①授業方針・テーマ	①グループの概念、グループダイナミクスの意義を理解し、グループの治療的活用を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②グループ特に、レクリエーション、グループワーク、治療的音楽活動などの運営やリーダーの役割が実践できることを目標とする。				
③授業計画・内容	③1 コースオリエンテーション グループの概念、グループダイナミクスの意義、グループの治療的活用 2 レクリエーションの概要、治療的音楽活動について 3 グループレクリエーションの実習1 4 グループレクリエーションの実習2 5 治療的音楽活動の実習1(歌唱・楽器演奏・動き) 6 治療的音楽活動の実習2(鑑賞) 7 対象者別セッション計画1(発達障害) 8 対象者別セッション実技演習1(発達障害) 9 対象者別セッション計画2(精神障害) 10 対象者別セッション実技演習2(精神障害) 11 対象者別セッション計画3(身体障害) 12 対象者別セッション実技演習3(身体障害) 13 対象者別セッション計画4(高齢者の障害) 14 対象者別セッション実技演習4(高齢者の障害) 15 まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書: i) 日本レクリエーション協会監修「福祉レクリエーション援助の方法」中央法規 ii) 山崎郁子著「治療的音楽活動のススメ」協同医書出版社 参考書: i) 日本レクリエーション協会監修「福祉レクリエーション総論」中央法規 ii) 作業療法ジャーナル編集委員会「レクリエーション」三輪書店				
⑤成績評価方法	⑤成績評価方法: 期末テスト 50%、実習・演習 40%、出席 10%				
⑥特記事項					

科目名	M329 日常生活活動学実習	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	ボンジェ ペイター、石橋 裕	前期	金曜日	1, 2 時限	
①授業方針・テーマ	①主に実習を通して作業遂行中の遂行要素を確認する。また援助方法を修得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業遂行の動作的な側面のみならず、心身機能や心理社会や環境やクライアントの主体性などについても視野を広げて、介入することの意義が理解する上で、計画と演技できる。 また、OT で関わる機会が多い疾患を持つクライアントに対する典型的な支援方法について説明することができる。				
③授業計画・内容	③1回目：ガイダンス、日常生活活動のキーワード、支援のプロセス 2回目：良肢位保持、基本動作、移乗(介助法の体得、動作分析)－1 3回目：良肢位保持、基本動作、移乗(介助法の体得、動作分析)－2 (小テストを含む) 4回目：AMPS ①とグループワーク課題提示 5回目：グループワーク(提示された事例について援助計画を立てる)－1.1 6回目：グループワーク(提示された事例について援助計画を立てる)－1.2 7回目：グループプレゼンテーション－1 8回目：AMPS ② 9回目：グループワーク(提示された事例について援助計画を立てる)－2.1 10回目：グループワーク(提示された事例について援助計画を立てる)－2.2 11回目：グループプレゼンテーション－2-1 12回目：グループプレゼンテーション－2-2 13回目：筆記試験 *1回=2コマ(しかし、試験=1コマ)				
④テキスト・参考書	④教科書：作業療法学全書改訂 3版作業療法技術学 3 日常生活活動 協同医書 吉川ひろみ「COPM・AMPS スターティングガイド」医学書院				
⑤成績評価方法	⑤介助方法技術小テスト(25%)、グループワーク(25%)、筆記試験(50%)を合わせて評価する				
⑥特記事項					

科目名	M334 作業療法評価臨地実習Ⅱ	科目種別	作業・3年・必修	単位数	3
担当教員	作業療法学科全教員	通年			
①授業方針・テーマ	①病院等の臨地教育施設において、作業療法評価を体験する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は以下の通りである。 1)職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2)施設の役割と機能について理解することができる。 3)対象者の作業療法評価計画を立案できる。 4)作業療法士の行う治療・援助・指導について理解することができる。 ※より具体的な目標は、オリエンテーションの際に配布する『臨地実習ガイドライン』に記載がある。				
③授業計画・内容	③施設での実習開始前にオリエンテーションを実施する。 各施設で3週間の実習を行う。 学内セミナーを実施する。				
④テキスト・参考書	④教科書：特に指定しない。 参考書：市川和子編集、標準作業療法学 臨床実習とケーススタディ、医学書院				
⑤成績評価方法	⑤臨地実習結果報告書および実習課題とセミナー発表により評価する。				
⑥特記事項	⑥本実習を履修するためには、実習以前に履修すべき科目の全ての単位を修得しなければならない。				

科目名	M337 総合臨地実習 I	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	8
担当教員	作業療法学科全教員	後期			
①授業方針・テーマ	①病院等の臨地教育施設において、指導者の監視指導を仰ぎながら、初回評価から再評価までの一連の作業療法プロセスを経験する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法士としての「基本的態度」を身に付け、「教わったやり方を意識し注意しながら実行」でき、「知識を駆使して問題解決に取り組める」ようになるのが目標である。より具体的な目標は、オリエンテーションの際に配布する『臨地実習ガイドライン』に記載がある。				
③授業計画・内容	③学内での実習オリエンテーション 臨地教育施設での実習(8週間) 学内セミナー				
④テキスト・参考書	④教科書:臨地実習ガイドライン(オリエンテーション時に配布する) 他、特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤臨地実習結果報告書、学内セミナーなどにより総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥* 臨地実習ガイドラインを十分に読みこむこと。 * 特に個人情報の取り扱いに関する項は、完全に理解できるまで熟読すること。 * 欠席は原則、認めない。自己の体調管理は「基本的態度」に含まれる重要な要素であることに留意する。				

科目名	M327 発達作業療法学	科目種別	作業・3年・必修	単位数	2
担当教員	伊藤 祐子	前期	月曜日		3時限
①授業方針・テーマ	①子どもの定型発達と、発達障害を児童・青年に対する作業療法について理解を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1)定型発達を理解する。 2)発達障害作業療法領域で用いられる評価法について学ぶ。 3)発達障害作業療法の対象を理解する。				
③授業計画・内容	③1)講義オリエンテーション、乳幼児の定型発達 2)発達障害の評価①情報収集による評価 3)発達障害の評価②観察・面接による評価 4)発達障害の評価③スクリーニングによる評価 5)発達障害の評価④発達全般の評価 6)発達障害の評価⑤視知覚、目と手の協調性の評価 7)発達障害の評価⑥知的機能の評価 8)脳性麻痺児・者の作業療法 9)知的障害児・者の作業療法 10)重度・重複障害児・者の作業療法 11)自閉症スペクトラム児・者の作業療法 12)学習障害、ADHD等発達障害児・者の作業療法 13)神経筋疾患、整形外科疾患その他疾患を持つ児・者の作業療法 14)保育園1日実習 15)試験および解説				
④テキスト・参考書	④テキスト:作業療法学全書改訂第3版 第6巻 作業治療学3 発達障害」協同医書出版社 参考書:参考書、資料はその都度紹介または配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席 10%、課題 30%、筆記試験 60%				
⑥特記事項	⑥グループワークを取り入れます。				

科目名	M328 発達作業療法学演習	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	伊藤 祐子	後期	月曜日 火曜日	2 時限 2 時限	
①授業方針・テーマ	①発達作業療法学で学んだ知識を基に、発達期の各疾患・障害に対する作業療法の実際を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②各疾患の障害特性を理解し、作業療法プログラムの計画、立案、支援の実際について学ぶ。 また、発達障害児を取り巻く環境を理解し、家族、地域を含めた支援について学ぶ。				
③授業計画・内容	③1)発達障害児・者支援の流れの理解 ICFに基づく分析を基に 2)発達障害児・者のADL、摂食・嚥下障害の理解と支援ほか 3)発達障害児・者の生活支援機器概論 4)発達障害児・者の生活支援機器演習 5、6)発達障害児に対する作業療法実践の理解 おもちゃ作りを通して 7)脳性麻痺児の評価と治療の実際 8)感覚統合理論①概論 9、10)感覚統合理論②支援の実際と体験 11)スヌーズレン概論 12)虐待児に対する作業療法 13)特別支援教育の作業療法 14)発達障害児・者の地域支援および関連法制度 15)発達障害児施設 1 日見学実習				
④テキスト・参考書	④テキスト:作業療法学全書改訂第3版 第6巻作業治療学3 発達障害」協同医書出版社 参考書:参考書、資料はその都度紹介または配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席と課題により総合的に評価します。				
⑥特記事項	⑥グループワークを取り入れます。講義期間中、複数の課題を設定します。				

科目名	M113 義肢装具学	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	伊藤 祐子、石橋 裕	前期・後半	火曜日	1 時限	
①授業方針・テーマ	①義肢装具は、身体の失われた機能や損なわれた機能を補うものである。この講義では、作業療法に必要な義肢装具の歴史、定義や種類および適応疾患について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法における義肢・装具の意義を理解する。 義肢・装具の構造と機能を理解する。 義肢・装具の適応となる疾患や障害について学ぶ。 車椅子の構造理解および支給体系を理解する。				
③授業計画・内容	③第1回 導入、義肢装具概論、義肢装具の歴史 第2回 車椅子・座位保持装置の基本構造と名称 第3回 シーティング概論 第4回 歩行補助具概論、体験 第5回 義足・下肢装具 第6回 義手概論 第7回 上肢装具概論 第8回 試験・解説				
④テキスト・参考書	④教科書: ・義肢装具のチェックポイント第8版, 日本リハビリテーション医学会監修, 医学書院 ・作業療法学全書改定第3版第9巻, 作業療法技術学1 古川宏編, 義肢装具学, 協同医書出版社				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 80%, 課題10%, 出席 10%				
⑥特記事項	⑥特になし。				

科目名	M117 義肢装具学実習	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	石橋 裕、伊藤 祐子		後期・前半		月曜日
①授業方針・テーマ	①前期の「義肢装具学」に引き続き、障害、疾患別に適切な義肢装具の選択、製作、チェックアウトが出来るようになることを目的に実習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②義手、スプリントのチェックアウトの方法を理解する。 筋電義手の仕組みを理解し、その適応方法を理解する。 スプリントの製作及びチェックアウトの方法を理解する。 装具作成に必要な基礎知識を整理する。				
③授業計画・内容	③第1回 作業療法における義手、スプリントの実際 第2回 スプリント作製 第3回 スプリント作製 第4回 スプリント作製 第5回 スプリント作製、チェックアウト 第6回 体験用義手チェックアウト、ADL 実習 第7回 筋電義手概論 第8回 義肢装具サポートセンター見学・事例検討				
④テキスト・参考書	④教科書： ・義肢装具のチェックポイント第8版，日本リハビリテーション医学会監修，医学書院 ・作業療法学全書改定第3版第9巻，作業療法技術学1 古川宏編，義肢装具学，協同医書出版社				
⑤成績評価方法	⑤課題・レポート・プレゼンテーション 80%，出席 20%				
⑥特記事項	⑥特になし。				

科目名	M323 作業療法学研究法	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	小林 法一		前期・後半		金曜日
①授業方針・テーマ	①1) 作業療法学における研究と必要性と意義を学ぶ。 2) 研究に必要な事項について学ぶ。 3) 研究に必要な主要概念を理解する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1, 作業療法における研究の必要性と意義を説明できる。 2, 研究に必要な主要概念を説明できる。 3, 研究論文を吟味するためのいくつかの視点が備わる。 4, テーマにそって文献レビューを行い，研究すべき課題を挙げる。				
③授業計画・内容	③1回 ガイダンス・課題提示 2~7回 セッションⅠ：研究に必要な概念を学ぶ。 1, 配布された資料を読み，研究に関連する分からない用語や概念をとってチェックする。 2, グループで集まり，各自のチェック内容をリスト化する。 3, グループで未解決な内容を踏まえて討議し，グループで1テーマを決める。 4, 解決・未解決リストを Excel 形式のファイルで作成し提出する。 5, 選択したテーマについて，資料を探し，まとめ，各グループ 20分程度で発表する。 6, " 8~15回 セッションⅡ：テーマにそって文献レビューを行い，研究テーマを確定し，研究命題を発表する。 1, 文献レビュー 2, 文献収集 3, 中間発表(1テーマ5分×6) 4, 中間発表(1テーマ5分×6) 5, 文献収集 6, 発表準備 7, 研究命題の発表(1テーマ5分以内) 8, "				
④テキスト・参考書	④教科書：山田孝編：作業療法研究法，医学書院 参考資料：鎌倉矩子・他，作業療法士のための研究法入門，三輪書店 朝倉隆司監訳，保健・医療のための研究法入門，協同医書 松村真司，概念モデルをつくる，iHope				
⑤成績評価方法	⑤出席 10%，発表内容 40%，試験 50%				
⑥特記事項	⑥授業は，基本的に小グループに分かれ，自分たちで学習すべき問題を選択し，解決にあたる形で行う。 受講者には，課される課題をこなすための予習復習を求める。 必要な情報を発見したり，アイデアが閃き「これだ！」という興奮を味わうのが理想である。				

科目名	M333 作業療法総合演習Ⅱ	科目種別	作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	井上薫、大嶋伸雄、石井良和、小林隆司、ボンジェ ペイター、伊藤祐子、小林法一、谷村厚子、宮本礼子、石橋 裕	後期		水曜日	3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①本科目は、これまでに本学で学んだ作業療法に関する全知識の統合を図り、作業療法への理解および実践力を向上させるものである。具体的には精神障害領域、身体障害領域における事例検討やロールプレイを学生主体のグループワーク(PBL: Problem Based Learning)形式で実施し、レポート等の課題を提出する。また、総合的な能力判定として、RST(Reasoning and Skills Tests)を実施する。また本科目は、2年生と合同で実施する(作業療法総合演習Ⅰ)。3年生ではそれまでに学んだ全てのことおよび作業療法評価臨地実習における学びを生かし、上級生としての役割・立場で演習に参加することで、学びを深化させてほしい。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②対象者の評価を実施し、評価結果を統合解釈し、問題点の抽出、作業療法目標の設定を行うまでの一連の過程について2年生よりもより深く、正確に実践できるようになる。2年生へのアドバイス・指導の経験を通じ、総合臨地実習に必要な知識・スキルを確実にし、教える立場を経験し、理解することを目標とする。また、作業療法総合臨地実習に必要とされるレベルの、問題解決能力、コミュニケーション能力、作業療法学生としてふさわしい態度、報告・連絡・相談の習慣が身についているか確認する。				
③授業計画・内容	③日程および具体的内容はオリエンテーション時に配布する。 第1回オリエンテーション 第2回 セッション1 問題解決能力養成課題等 第3回 セッション2-1 身体障害系事例検討 第4回 セッション2-2 " 第5回セッション2-3 " 第6回セッション2-4 " 第7回セッション2-5 " 第8回 セッション3-1 精神障害系事例検討 第9回セッション3-2 " 第10回セッション3-3 " 第11回 セッション3-4 " 第12-15回 RST11月中を予定				
④テキスト・参考書	④マニュアルを配布する。教科書は特に指定しない。すべての作業療法関連科目の書籍、資料、学生自身のノート、その他を適宜活用すること。				
⑤成績評価方法	⑤レポート課題、RST、出席、態度により総合的に評価する。全日出席を原則とする。				
⑥特記事項	⑥授業の進め方、課題、RSTの詳細は初講時に伝える。グループワークの実施に際しては、教員はファシリテータとして参加し、進め方のアドバイスやコメントは適宜行うが、あくまでも学生主体の科目である。臨地実習では、指導者の下、学生それぞれが一人で臨むこととなる、本科目はその前段階として学友と共に学び、討論を重ねていくことで、受講者全員が成長することを目指している。本科目を有効に活用し、臨地実習、社会人となるための準備の一助として欲しい。				

科目名	M332 認知作業療法学演習	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	宮本 礼子、大嶋 伸雄	後期		金曜日	3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①高次脳機能障害全般に対する治療的介入のための基礎知識ならびに実践方法を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 様々な高次脳機能障害に対する介入のための基礎知識と手段を説明できる。 2. 高次脳機能障害への様々な介入方法を理解し、介入結果を評価・解釈することができる。 3. 高次脳機能障害の目的別リハビリテーション方法とその意義を理解することができる。				
③授業計画・内容	③1. 高次脳機能障害リハビリテーション総論:プログラムの原則と訓練計画 2. 注意障害と半側空間無視に対するリハビリテーション 3. 視知聴覚の高次脳機能障害に対するリハビリテーション (視覚失認・聴覚失認・身体失認・地誌的障害等に対する作業療法) 4. 行為の高次脳機能障害に対するリハビリテーション (失行・行為の抑制障害に対する作業療法) 5. 失語症に対するリハビリテーション …非常勤講師依頼予定 6. 記憶障害に対するリハビリテーション 7. 遂行機能障害に対するリハビリテーション 8. 疾患から整理する高次脳機能障害とリハビリ1: 頭部外傷と情緒障害への対応 9. 疾患から整理する高次脳機能障害とリハビリ2: 脳腫瘍 10. 症例検討シミュレーション1: 一症状が特化して出現した症例の退院後の生活(グループワーク) 11. 症例検討シミュレーション2: 重複障害を有する患者の院内リハと家族支援 (グループワーク) 12. 認知作業療法1: 作業療法カウンセリングと高次脳機能障害 13. 認知作業療法2: 認知的技法①②・症例検討 14. 認知作業療法3: 行動的技法・症例検討 15. 認知作業療法4: 症例検討 16. 筆記試験				
④テキスト・参考書	④教科書: 1. 石合純夫: 高次脳機能障害学第2版. 医歯薬出版、2012. 参考書: 1. 原寛美 監修: 高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版. 医歯薬出版、2015. 2. 森惟明、鶴見隆正: PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見第2版. 医学書院、2010. 3. 鎌倉矩子, 本多留美: 高次脳機能障害の作業療法. 三輪書店, 2013 4. 大嶋伸雄 他: 患者力を引き出す作業療法. 三輪書店, 2013.				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験成績、出席状況を総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥上記以外にも参考書は随時紹介する。				

科目名	M325 老年作業療法学	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	小林 法一	前期・前半		木曜日	1 時限
①授業方針・テーマ	①老年期は誰にでも訪れるものであるが、本人にとっては初めての経験である。ライフステージとしての老年期の特徴ならびに高齢者・高齢障害者の抱える課題に対する作業療法の捉え方を学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は以下の通りである。 1, 高齢社会の現状と課題を挙げることが出来る。 2, 高齢者の精神、身体機能の特性、ならびに日常生活の特徴を説明できる。 3, OTはクライアントのどのような課題に関わるのかイメージできる。				
③授業計画・内容	③以下の内容について8回の講義を行う。 1 オリエンテーション、高齢者のイメージ 2 高齢者の身体機能、精神・心理機能の特性 高齢社会の抱える問題、 高齢者の日常生活 3 高齢期の課題 作業療法評価の視点 4 老年期の作業療法で用いられる理論-1 5 老年期の作業療法で用いられる理論-2 6 認知症の作業療法 7 高齢者の社会資源 8 リスク管理				
④テキスト・参考書	④教科書:作業療法学全書改訂3版 第7巻作業治療学4「老年期」 協同医書 参考書:高齢期障害領域の作業療法 中央法規 作業療法の理論(山田孝ほか訳) 作業療法実践のための6つの理論(岩崎テル子ほか訳) 協同医書				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(30%)、レポート(10%)、期末試験(60%)を総合して評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M326 老年作業療法学演習	科目種別	作業・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	小林 法一	後期		水曜日 金曜日	1 時限 1・2 時限
①授業方針・テーマ	①老年期の作業療法実践のための基礎的な知識および介入方法の習得を目指す				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は次の通りである。 * 作業療法の計画立案に必要な情報と評価内容について列挙できる * 報告された事例について、「クライアントの可能性を把握し、環境を考慮した上で、QOL を高める作業をクライアントとの協業で選択する」という作業療法プロセスがどの様になされたか説明できる				
③授業計画・内容	③以下の内容について講義、演習を行う 1, ガイダンス、老年期作業療法学の確認 2, 老年期作業療法の実際(実践のプロセス) 3, 老年期作業療法の実際(各種評価尺度) 4~6, 周辺基礎知識 7, 作業療法士による訪問リハビリテーション 8, 介護老人保健施設の作業療法 9, QOL の概念・構造と評価 10~13, 事例検討 14~15, OT 計画立案				
④テキスト・参考書	高齢期障害領域の作業療法 中央法規				
⑤成績評価方法	出席状況(40%)、レポート(25%)、期末試験(35%)を総合して評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M112 作業療法マネジメント論	科目種別	作業・4年・必修	単位数	1
担当教員	大嶋 伸雄	前期			
①授業方針・テーマ	①作業療法の業務範囲は広く、その適応領域にますます拡大しつつある。臨床応用分野として、患者マネジメント・ケアマネジメント、職場マネジメント、患者教育、情報管理などがあげられる。本講ではこれらの概要と一般性の能力～ジェネラリティ修得のための基礎力を育むことをテーマとする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②教育目標：保健医療専門職として必要な作業療法士倫理、職場マネジメント、情報学などについて幅広く学ぶ。また、作業療法関連の医療制度、法規、社会資源、診療報酬、作業療法関連の施設開設方法などについて学ぶ。				
③授業計画・内容	③授業内容(シラバス) 1回：職業倫理と作業療法関連法規 2回：マネジメントの基礎理論 3回：リハビリテーション・マネジメント(施設内患者・地域ケア) 4回：職場マネジメント(職場管理・スタッフ管理・他部門) 5回：診療報酬制度概説・作業療法士の起業 6回：作業療法情報学(診療録・記録～情報共有化) 7回：災害時リハビリテーション・災害対応作業療法論 8回：作業療法国際貢献論・グループワーク課題				
④テキスト・参考書	④教科書及び参考書 参考書：日本作業療法士協会・編：医療保険・介護保険の手引き，日本作業療法士協会，2002 参考資料：配付資料				
⑤成績評価方法	⑤評価方法及び特に記すべき事項 筆記試験 40%，プレゼンテーション 40%，レポート 20%				
⑥特記事項	⑥平成 28 年度・開講予定日(全て3-4限目)：①7月6日、②7月 13 日、③7月 20 日、④7月 27 日				

科目名	M115 地域作業療法学	科目種別	作業・4年・必修	単位数	1
担当教員	谷村 厚子、小林 法一	前期・前半	月曜日		1, 2, 3時限
①授業方針・テーマ	①地域に根ざした作業療法(Community-based Occupational Therapy: CBOT)の概要について知るとともに、そこで用いられる実践モデルについて知識を深める。また、CBOT の実践例や実践モデルの具体的な活用法について理解することを目標とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②同上				
③授業計画・内容	③1回：CBOT と公衆衛生学の関係 2回：CBOT の概要 3回：CBOT の実践モデル 4回：CBOT の実践例 5回：CBOT の実践モデルの具体的な活用法① 6回：CBOT の実践モデルの具体的な活用法② 7回：CBOT の実践モデルの具体的な活用法③ 8回：まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書：山田孝・監訳：地域に根ざした作業療法。協同医書出版社，2005。 参考書：太田睦美・編集，社団法人 日本作業療法士協会・監修：作業療法全書第 13 巻 地域作業療法学 改訂第 3 版，協同医書出版社，2009。 参考書：小川恵子・編集，矢谷令子・監修：標準作業療法学 地域作業療法 第 2 版。医学書院，2012。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 20%、レポート 60%、出席 20%				
⑥特記事項					

科目名	M116 住環境整備学	科目種別	作業・4年・必修	単位数	1
担当教員	橋本 美芽	前期・前半			
①授業方針・テーマ	①本講義では、作業療法士の実務において担当患者や障がい者の生活環境の整備を指導する場合に求められる、住宅改造(住宅改修)と福祉用具を活用する支援技術、すなわち、住環境整備の基礎知識の習得を目標とします。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②在宅の高齢者・身体障がい者または入院患者の退院指導や専門指導において、在宅生活の維持継続を支援するために必要な住環境の基礎知識と評価の着眼点、住環境における移動・排泄・入浴等の行為を阻害する問題点の改善を図る整備手法について習得します。対象者の個別性に配慮して整備を指導する医療専門職としての知識および技術力習得に重点を置いた講義を行います。				
③授業計画・内容	③授業計画は以下のとおりです。 第1回:住環境整備の目的と必要性 第2回:住環境の安全性と転倒予防 第3回:日本の住宅構造と移動を阻害する因子の理解 第4回:生活環境整備の手法と検討のポイント①(段差と移動空間) 第5回:生活環境整備の手法と検討のポイント②(廊下・階段の手すり) 第6回:生活環境整備の手法と検討のポイント③(トイレ) 第7回:生活環境整備の手法と検討のポイント④(浴室) 第8回:試験と解説				
④テキスト・参考書	④教科書:OT・PTのための住環境整備論 第2版 野村歡・橋本美芽 三輪書店				
⑤成績評価方法	⑤講義時における出席状況と授業態度、筆記試験の成績により評価します。				
⑥特記事項					

科目名	M118 作業療法理論と実践	科目種別	作業・4年・必修	単位数	1
担当教員	石井 良和	前期・後半		水曜日	1,2時限
①授業方針・テーマ	①現代作業療法の一源流である作業行動理論を学び、そこから派生してきた人間作業モデルについて学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業行動理論の概略を説明できる。 人間作業モデルを説明できる。 人間作業モデルを症例に当てはめて考えることができる。				
③授業計画・内容	③1.人間作業モデルの変遷についてふれ、人間作業モデルの観点から作業機能障害を理解する。 2.人間作業モデルにおける意志、習慣化、遂行能力、環境についての考え方を紹介する。 3. 同上 4.人間作業モデルの特徴であるシステム理論(Dynamical System Theory)について講義する。 5.行為の変化について概説する。変化の種類と段階について学び、治療に必要な見方を学習する。 6.人間作業モデルの評価概説 7.作業行動理論を理解するための文献から、その歴史的意義について理解する。 8.試験				
④テキスト・参考書	④テキスト:『人間作業モデル改訂第4版』Kielhofner,G.(山田孝・監訳、協同医書出版社) 参考書:資料は随時配付する。				
⑤成績評価方法	⑤出席および授業への態度(20%)、授業課題(10%)、試験(70%)を総合して評価する。				
⑥特記事項	⑥オフィスアワー:連絡すれば随時可 7月に集中講義するので開講日時は臨地実習終了後に確認する。				

科目名	M119 就労支援技術論演習	科目種別	作業・4年・必修	単位数	1
担当教員	ボンジェ ペイター	前期	木曜日	3,4,5 時限	
①授業方針・テーマ	① 就労支援(職業リハビリテーション)の意義を理解し、障害のある人々への就労支援に必要な知識と技術および作業療法(OT)の役割を習得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・就労支援についての基本的知識をもつことができる。 ・就労支援の実際と課題に関して疑問や課題を明確、ディスカッションを行い、理解と考察を深めることができる。				
③授業計画・内容	③第1回 就労支援の概要、障がい者の就労支援制度、障がい者の雇用問題 第2回 小テスト、職業リハビリテーション(職務分析、評価・職業紹介・選択) 第3回 職業リハビリテーション(職業紹介・選択、支援方法)、小テスト 作業科学の視点 第4回 課題(症例と社会的な問題から選択)、スウェーデンにおける就労支援の一事例 第5回 課題(グループワーク) 第6回 まとめ、発表・小テスト				
④テキスト・参考書	④テキスト:なし 参考書:作業療法学全書改訂3版 第12巻 作業療法技術学4 職業関連活動作業療法学全書、協同医書 松為信雄、菊池恵美子編「職業リハビリテーション学(改訂第2版)」協同医書出版社 その他				
⑤成績評価方法	⑤プレゼンテーション(40%) 小テスト(60%)				
⑥特記事項					

科目名	M340 総合臨地実習Ⅱ	科目種別	作業・4年・必修 クラス指定	単位数	8
担当教員	作業療学科全教員	前期			
①授業方針・テーマ	①病院等の臨地教育施設において、指導者の監視指導を仰ぎながら、初回評価から再評価までの一連の作業療法プロセスを経験する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法士としての「基本的態度」を身に付け、「教わったやり方を意識し注意しながら実行」でき、「知識を駆使して問題解決に取り組める」ようになるのが目標である。より具体的な目標は、オリエンテーションの際に配布する『臨地実習ガイドライン』に記載がある。				
③授業計画・内容	③学内での実習オリエンテーション 臨地教育施設での実習(8週間) 学内セミナー				
④テキスト・参考書	④教科書:臨地実習ガイドライン(オリエンテーション時に配布する) 他、特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤臨地実習結果報告書、学内セミナーなどにより総合的に評価する。 * 臨地実習ガイドラインを十分に読みこむこと。 * 特に個人情報の取り扱いに関する項は、完全に理解できるまで熟読すること。 * 欠席は原則、認めない。自己の体調管理は「基本的態度」に含まれる重要な要素であることに留意する。				
⑥特記事項					

科目名	M120 専門職関連連携演習Ⅰ	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	大嶋 伸雄	前期			
①授業方針・テーマ	①専門職連携学習(IPL: Inter-professional Learning)を通じて、作業療法士として提供するサービス全体の底上げを図ると同時に、複数の専門性を視野に入れた作業療法管理職養成のためのマネジメント教育、さらには本学にふさわしいリーダーシップ教育の一環として位置づけられる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②保健医療福祉領域において対象者(患者)を中心とした質の高いサービスと技術を提供できる高度な専門職を育成することを教育目標として掲げる。そのため、まず他専門職とのコミュニケーション・スキルと他専門性に対する知識を身につける。				
③授業計画・内容	③1. 専門職連携協働の基礎理論・実践講義×2回(7月・短期集中講義) 2. 他大学の保健・医療・福祉専門学生との合同によるIPE演習に参加する。 (医学生・看護学生・PT学生・OT学生・MSW学生とのグループワークへ参加する:期日は8月の1日を予定)				
④テキスト・参考書	④テキスト:「役に立つ専門職連携Ⅰ・Ⅱ」講義時にPDFファイルとして配布する。 参考書:順次紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤出席50%, レポート50%				
⑥特記事項	⑥IPE演習は首都圏近郊の大学にて行われる。				

科目名	M122 専門職関連連携演習Ⅱ	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	大嶋 伸雄	後期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	①専門職連携教育(IPE: Inter-professional Education)を通じて専門職が提供するサービス全体の底上げを図ると同時に、複数の専門性を視野に入れた管理職育成のためのマネジメント教育、さらには本学にふさわしいリーダーシップ教育の一環として位置づけられる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②保健医療福祉専門領域において対象者(患者)を中心とした質の高いサービスと技術を提供できる高度な専門職を育成することを教育目標として掲げる。 本演習では、参加する作業療法学生が実際に連携協働チームの一員として地域医療の現場に行き、そこで得られた様々な課題を多専門チーム内において討論することにより、臨床で求められる柔軟な思考力と実践的な対処能力を身につけるための基礎力を育む。				
③授業計画・内容	③1. 演習オリエンテーション 2. 履修する学生は以下AまたはBのどちらかを選択する。 A: 地域医療魚沼学校(新潟県)での多専門職連携研修にオブザーバーとして参加(9~10月の1日間) B: 佐久総合病院・地域医療研修センター主催「臨床家のためのIPW研修」にオブザーバー参加(10月の2日間) 3. 学内演習: 大学院・人間健康科学研究科の科目である「臨床医療福祉連携システム特論」の演習に参加する。 (医師・看護師・PT・OT・MSWなどのグループワークにオブザーバーとして参加する:10月18日・19日の2日間実施 予定場所:秋葉原サテライトキャンパス)				
④テキスト・参考書	④テキスト:講義時に配布する。 参考書:				
⑤成績評価方法	⑤出席50%, 症例報告発表30%, 討論20%				
⑥特記事項	⑥作業療法学生は『専門職間連携演習Ⅰ』とともに本科目を履修することを推奨する。本科目は大学院・人間健康科学研究科の科目「臨床医療福祉連携システム特論」との合同メザニン科目である。				

科目名	M124 メンタルヘルス作業療法	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	谷村 厚子		後期・前半		木曜日
①授業方針・テーマ	①メンタルヘルス領域における作業療法の対象は、狭義の精神疾患だけではなく、身体障害に伴う精神的不調、勤労者のうつ、さらに、予防を目的とした一般健常者のストレス対処行動など、多岐にわたっている。また、作業療法士を含めた医療保健福祉関係職種にとって、自分自身の精神保健の維持は、良質な医療保健福祉サービスを安定して供給するためにも極めて重要な事項である。本科目では、メンタルヘルス領域における作業療法の役割を学び、可能性を検討することを目標とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②同上				
③授業計画・内容	③1回 オリエンテーション、メンタルヘルス領域における作業療法とは 2回 身体障害に伴う精神的不調に対する作業療法 3回 勤労者のうつに対する作業療法 4回 メンタルヘルス領域における予防的作業療法 ①(総論) 5回 メンタルヘルス領域における予防的作業療法 ②(学校) 6回 メンタルヘルス領域における予防的作業療法 ③(職場) 7回 メンタルヘルス領域における作業療法の可能性 ①(グループワーク) 8回 メンタルヘルス領域における作業療法の可能性 ②(プレゼンテーション)				
④テキスト・参考書	④必要に応じて講義中に配付する。				
⑤成績評価方法	⑤プレゼンテーション 40%、レポート 50%、出席 10%				
⑥特記事項	⑥メンタルヘルス領域における作業療法の可能性を多角的に考察してみたい学生に選択してほしい科目である。 ※「総合臨地実習Ⅰ、Ⅱ」の合格を履修要件とする。				

科目名	M269 カウンセリング論	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	藺牟田 洋美		後期・前半		金曜日
①授業方針・テーマ	①色々な心理療法で応用可能なマイクロカウンセリング技法の理解と習得に焦点をあてる。視覚教材による学習を通じて、その理論を理解するだけにとまらず、医療場面で応用できるようにカウンセリングの実技を複数回実施し、体得を目指す。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②カウンセリングとは、対象となる人の問題解決や心理的発達などを目的とした人間関係である。また、カウンセリングは身につけておくこととふだんの対人コミュニケーションや医療現場にも大いに役立つ。カウンセリングの理論は、ロジャーズをはじめ、多くの人によって提唱されている。本講義では、それらに共通する基本的なカウンセリング技法として、アイビーが提唱するマイクロカウンセリングを通して、話を聴いてもらうことの快適さを体感し、理解することを目的とする。				
③授業計画・内容	③スケジュールは以下の通りである。ただし、受講生の人数や進行状況に合わせて変更する可能性があることを了承されたい。 1: マイクロカウンセリングの理論的基礎 2: カウンセリングの実践: 基本的かかわり技法(1) かかわり行動とは 3: カウンセリングの実践: 基本的かかわり技法(2) 質問技法 4: カウンセリングの実践: 基本的かかわり技法(3) はげまし技法・いいかえ技法 5: カウンセリングの実践: 基本的かかわり技法(4) 感情の反映・要約技法 6: 対応に困った事例へのカウンセリングと考察(1) 7: 対応に困った事例へのカウンセリングと考察(2) 8: まとめ				
④テキスト・参考書	④特に指定しない。必要に応じて紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤評価はレポート(40%)と受講態度: 積極性(60%)により行う。				
⑥特記事項					

科目名	M123 作業療法支援機器研究	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	伊藤 祐子、井上 薫		後期		水曜日
①授業方針・テーマ	①作業療法の目的は、対象者のその人らしい生活をできる限り実現することであり、支援機器を使用することは、重要な手段の一つである。本科目では、作業療法の臨床で使用されるローテクからハイテクまで含めた様々な支援機器について、学生自ら積極的に研究心を持って取り組むことを目指す。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・さまざまな障害を持つ人々の日常生活を支援する機器について、知識と技術を得ることができる。 ・作業療法における支援機器利用の変遷について学び、現状と課題について分析することができる。 ・作業療法士として支援機器の開発および有効活用するための視点を修得することができる。				
③授業計画・内容	③第1回 生活支援機器概論 第2回、3回 支援機器センター視察 第4回 テーマの選定(製作課題・自由レポート課題) 第5回～7回 関連展示会・研究会・学会への参加、製作課題取り組み、調査活動、プレゼンテーション資料・報告書作成 第8回 成果発表				
④テキスト・参考書	④テキストはその都度紹介、または、プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤課題 70%(レポート、プレゼンテーション、制作した福祉用具など)、出席 30%				
⑥特記事項	⑥原則として、時間割以外の日時に開催される研究会等へ参加を含めます。 ※「総合臨地実習Ⅰ、Ⅱ」の合格を履修要件とする。				

科目名	M121 作業療法事例研究	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	小林 法一		後期・前半		火曜日
①授業方針・テーマ	①総合臨地実習で経験した事例を題材に、事例報告を書くためのポイントを学ぶ。事例を自ら発表できる能力、および後輩を指導する能力を身に付けることを目指す。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②* 書式に則って報告書を書くことが出来る。 * 臨地実践中のセラピストのリーズニングを適確に記述できる。 * 職能団体の事例登録制度への登録の仕方を知る。				
③授業計画・内容	③1, 事例報告と研究論文の違い 2, 事例報告に含めるべき内容 3, 報告目的の絞り込み方 4, 報告に用いる用語の使い方 5, 作業療法士協会事例報告制度の目的 6, " の仕組み 7, 事例発表1 8, 事例発表2, まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:使用しない。 参考書: 講義の中で紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤試験は行わない。出席点 50%, 発表内容 50%				
⑥特記事項	⑥卒業後の生涯教育システム(日本作業療法士協会)で必要となる「事例報告」に準拠した講義を行う。 ※「総合臨地実習Ⅰ、Ⅱ」の合格を履修要件とする。				

科目名	M125 住環境整備学実習	科目種別	作業・4年・選択	単位数	1
担当教員	橋本 美芽		後期・前半		木曜日
①授業方針・テーマ	①本講義の実習では、実務の退院指導において実際に行われる、ADL の能力維持に不可欠な患者宅の訪問調査において必要とされる住環境に関する情報収集方法、検討方法、情報提示方法の知識を習得することを目標とします。実習をできるだけ取り入れて解説します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②専門職として実際の場面で行う訪問指導において必要とされる実務技術として、住環境の調査手法、記録法としての見取り図作成、改造案の提案までを、実習形式で学習します。各自の自宅を患者宅に見立て、環境の評価、調査、改善案の検討を体験します。				
③授業計画・内容	③授業計画は以下のとおりです。 第1回：患者宅を訪問して調査する環境情報 第2回：図面の種類と見方、抽出できる情報 第3回：住環境の記録方法 見取り図の書き方 第4回：実習・自宅を用いた見取り図の作成 第5回：障害特性別にみた住宅用福祉用具選定と改善案の検討 第6回：実習・自宅を用いた改善案の検討と作成 第7回：課題の提出と講評				
④テキスト・参考書	④教科書：OT・PTのための住環境整備論 第2版 野村歡・橋本美芽 三輪書店				
⑤成績評価方法	⑤講義時における出席状況と受講態度、演習課題により評価します。				
⑥特記事項					

科目名	M271 地域作業療法学実習	科目種別	作業・4年・選択 クラス指定	単位数	1
担当教員	谷村 厚子、小林 法一、井上 薫		後期・後半		月曜日
①授業方針・テーマ	①「地域作業療法学」で学んだ知識や「総合臨地実習」の経験をふまえ、地域作業療法の現場を見聞し、理念や役割について理解を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②地域リハビリテーションの体制を知り、地域における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。				
③授業計画・内容	③合計1週間の地域実習を行う。 1～8回：以下の実習課題に取り組む。 A, 地域リハビリテーション体制の把握 B, 実習計画の立案 C, 作業療法士の業務の見学, 体験 D, レポート作成 E, 学内セミナーへの参加				
④テキスト・参考書	④使用しない。				
⑤成績評価方法	⑤実習指導者による評価(70%), セミナー発表(20%), レポート(10%)				
⑥特記事項	⑥地域作業療法の現場は、小児から高齢者まで、また身体障害や精神障害、発達障害を対象とする施設、あるいは介護支援を目的とする施設や就労支援、福祉機器、企業、一般住民など多岐にわたる。実習地は学生の希望を極力考慮して準備するが、その後の事前学習や実習地との連絡、実習計画の立案などの一連の行動においては、学生本人の能動的な姿勢が強く求められる。 ※「総合臨地実習Ⅰ、Ⅱ」の合格を履修要件とする。				

科目名	M270 卒業研究	科目種別	作業・4年・選択 (推奨)	単位数	4
担当教員	作業療法学科全教員	後期	水曜日 金曜日		1,2時限 4,5時限
①授業方針・テーマ	①これまでの学習、実習の上に行われる総合課題である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②作業療法を中心とした保健医療福祉について、これまでに学んだ中から様々な問題や課題を提起し、研究課題として抽出する能力を育む。いくつかの段階を経て研究課題を選択した後、実際に研究することにより、研究の進め方、文献検索の方法、論文の読み方、まとめ方、および発表方法といった一連の研究プロセスを学び、より高度の専門性を涵養する。				
③授業計画・内容	③授業内容(スケジュール) 3年次:2月・卒業研究マニュアルの配布 3月・研究テーマ(仮)及び指導教員(教授・准教授・助教)の仮決定 4年次:~7月・指導教員と相談しながら、研究課題について検討 8月・研究テーマならびに指導教員の最終決定 8~12月・研究と研究指導の継続 12月下旬・卒業研究発表 12月末・卒業研究論文の提出				
④テキスト・参考書	④教科書及び参考書 研究テーマに即したものを指導教員と相談しながら選択する。				
⑤成績評価方法	⑤評価方法及び特記すべき事項 卒業研究発表および論文をもとに、主査及び副査の2名で評価する。				
⑥特記事項	⑥※「総合臨地実習Ⅰ,Ⅱ」の合格を履修要件とする。 「研究を計画・実行し論文にまとめるという経験」は臨床のみならず今後の進路にとっても可能性を開く貴重なものですので、履修することをお勧めします。				